昭和30年8月7日　朝日新聞　岩手版

# 一路甲子園へ

## 岩手高ナイン　元気で東京を出発

甲子園に向う岩手高ナインは六日朝八時三十五分上野駅着、「夜行でも良く眠れました」と一同すこぶる元気だった。東海道は二班に分れ、戸鳴部長引率の田中主将以下大選手は朝九時発の特急"つばめ"で、川村監督引率の村川投手以下十選手は同九時三分発の臨時特急"さくら"でそれぞれ東京を出発、ここでも在京先輩十数人の激励に送られた岩手高チームは好天の東海道の旅を楽しんだのち同夕五時着の"つばめ"と同夕五時八分着の"さくら"で大阪に着き、宿舎の西宮市池田町三二「三福旅館」に入った。

## 甲子園に思う ②

### 武藤常吉氏(53)

大正六年の第三回大会に補欠で、大正八年に鳴尾の第五回大会には盛岡中の三年生でセンター、四番打者として出場した。

### のびのびと個性生かせ

当時は胸に『杜鵑』と書いて出場したのでどこの田舎チームだと馬鹿にされたようだが、東北に敵なく、本大会でもダークホース的存在だった。一、二回戦はどこだったか忘れたが、とにかく勝ち、準決勝で、優勝した神戸一中と顔が会い4－0だかで負けた。勝った相手は憶えていないが、負けた相手は忘れられない。私は地方大会では一番当っていたので期待されていたが、大観衆で上ったためか、全然当らず、また高いスタンドは白一色で人という感じはしなかった。その白い人波に白い打球が吸い込まれて見失い、捕りにくくて困ったものだった。

岩手高は初出場だが、選手諸君は十分体に気をつけ、勝敗にこだわらず、上ってのびのびと個性を生かして試合をして下さい。苦戦するとは思うが、好球は第一球からでも打って行くという積極性がほしいと思います。とにかく立派な試合をして来て下さい。（盛岡市生姜町運送店主）＝写真は武藤氏

## 選手の合宿

奥羽大会で優勝した岩手高が、大会の地元開催を利して合宿生活をせずに選手を自宅から通わせたというので評判になった。優勝したからこの"合宿廃止"が浮かび上って来たともいえるが新しい試みには違いない。生徒を最良のコンディションに置くには自宅に限るというのだ。今まで選手の合宿はチームの"和"をつくるのに効果があると考えられて来た。確かにそういう長所はあったろう。だが大会が近づくと先輩たちがこもごも合宿に訪れ皆を集めて注意やら訓示やらを与える風景がどこでも見つけられた。あのような空気はむしろ選手に精神的な負担を増し疲れさせるのではないかと逆効果を感じさせる。またこれがない日はルーズな生活になったりする。個々の選手の食事の好ききらいを考えても合宿より自宅の方がいいに決っている。合宿の否定面ばかりを挙げたが、自宅の遠い者が多く、合宿せねば練習が出来ないなどの事情ならともかく合宿せねば向上しないと形式的に決めてしまう考え方は再検討してもよいだろう。いずれにしても選手をベストコンディションに置く事が目的なのだから。

昭和30年8月8日　朝日新聞　岩手版

# 白球追って元気一杯

## 岩手高　甲子園で初の練習

甲子園で初練習の岩高チーム

⑩…【甲子園発】組合せ抽選をきように控えて岩手高チームは七日初めて甲子園の土を踏み、午前十時半から三十分初練習をした。夢にえがき、うわさに聞いていた甲子園だったが、高さ八十尺、銀色の大屋根、七万人収容の大スタンドを目のあたりにしてますどきもを抜かれたらしく、選手は驚嘆の視線をあちこちに走らせていた。

⑩…だが川村監督のバットでシートノックが始ると、前日までの長旅の疲れの跡もみせず各選手は甲子園の土をけって縦横に白球を追い、日ごろの堅実なプレーを見せフリーバッティングでもなかなかよいところをみせていた。川村監督も「皆の調子はいいですよ」と喜んでいた。

⑩…郷里の先輩阪神タイガースの白坂選手（福岡中出身）がこの初練習にひょっこり姿を見せ「体に気をつけろよ」とあれこれ気を配り、甲子園のグラウンドのクセなど有益な話を聞かせていた。

⑩…宿舎の三福旅館は国電西宮駅のまん前、バスで球場まで二十分余の比較的便利な所にある。旅館の人たちも岩高ナインの真面目な態度にすっかりほれ込んでこの日から三人がかりで球場まで弁当を運んでくれる優遇ぶり。「電車の音など気にしないで選手たちはぐっすり眠っていますよ」と戸島部長はいっていた。

### 甲子園だより

**主将　田中義男君から**…甲子園は僕の想像よりも大きかった。この晴れの舞台で全国の一流校と試合できると思えば代表校となった喜びを改めて強く感じました。

他校の練習をみるとバッティングがいいのに驚きましたが、うちも皆が元気なので、この調子を大会まで持込めば恐れることはないと思います。

大阪は通り過ぎただけで街の印象はまだいえませんが、宿の人は言葉が柔かだし親切です。思ったよりも涼しいのには助かります。

---

## 甲子園に思う ③

### 体をこわさぬよう

#### よく休養をとって

吉田　弘四氏（38）

昭和八年の第十九回大会の時盛岡中の五年生だった。大正十五年以来しばらく振りの東北大会優勝で、大したさわぎだったことを覚えている。私は水沢駒形クラブにいる海野君と交代でショートとピッチャーをやり、三番を打っていたが、一回戦で浪華商業と当り、十二―三で大敗した。盛岡には盛中球場のほかなく、マウンドのある正式な球場でやったことはなかった練習時間は三十分で、試合がはじまり、海野と二人で交代で投げたが、コントロールがつかず二回までに大量十点を奪われてしまった。スタンドが大きく白一色、それがセンスでゆらゆらゆれているので、すっかり上ってしまって良い所がなかった。夜暑くてねむれなかったのも手伝った。

本県はシーズン的にも恵まれず、関東、関西のチームと同等とはいえないが、初優勝で出たのだから、チームワークを発揮して、全力を挙げて悔いのない戦をしてもらいたい。よく休んで体をこわさないように、勉強して来て下さい。

（岩手トヨタ自動車会社車両部長）＝写真は吉田氏

# われに勝算あり

## 岩手高　法政二高と対戦決る

【大阪発】郷土代表岩手高は甲子園大会第一日（十日）第二試合に神奈川代表法政二高と対戦する。八日朝十時から朝日新聞大阪本社講堂で開かれた全国高校野球大会の組合せ抽選会で、岩手高小田島マネジャーが引いた〝運命のくじ〟はこれだった。

抽選会には戸嶋部長と小田島君が出席、くじ順で小田島君が十六番目に引いた白い封筒に手が触れるとき同君のこめかみが、ぴりりとふるえた。相手校は法政二高―大会出場二回目の都会チームで試合運びのうまさはうわさに高い。大泉、宗像、加古の三投手がいるが、いずれも打たせて取る型ですこみのある投手ではなさそう。攻守のバランスはよいと聞いている

「うちと型が似ているようですね、乗ずるすきはあります。それにわれわれでは絶対負けません」と組合せが決まると戸島部長は何時になく強気を見せた。宿舎で組合せを聞いたナインも「がん張れば勝てるぞ」と闘志は満々だった。

抽選会のあと午後三時から朝日会館で開かれた選手歓迎の茶話会には全選手が出席全国選手の前で校歌を高らかに歌い拍手を受けた。

【写真はくじをひく小田島マネージャー】

## 甲子園に思う ④

## 最後まで立派に

田山　清八氏（34）

昭和十一年は盛岡商業にとっては、野球部創立以来十六年振りに初めて甲子園をふんだ記念すべき年だ。県下大会では決勝で遠野に負けたが、東羽大会ではこれを破って優勝した。本大会では一回戦でその年の優勝校岐阜商と当って十八―〇の大差でシャット・アウトされた。ジャンケンで勝って先に守備したということが、気分的にすでに負けていたのかもしれないが、これがあとで批判された。一回の表に三ゴロを三つ連失して無死満塁のあと、四番打者にランナー一掃の中越二塁打をたれてガクンといってしまった。私は四年でライトとセンターを守ったが、盛商が放った三本のヒットのうち一本を打ったのがせめてもの慰い出です。あとは外野へ来た打球のバウンドがのびて驚いたことと、外野のフェンスにはねかえった球の処理がむずかしかったことが印象に残っています。

岩手高には何よりも気候とグラウンドになれることと、試合を最後まで捨てないことを望みます。少しの差なら気力で押せるものだから、積極的に戦い、負けてもスタンドから「来年また出て来いよ」といわれるような立派な試合をしてもらいたい。（盛岡市松尾前材木商）＝写真は田山氏

## 甲子園便り

### ◇三塁手板垣隆夫君から同級生の竹花国夫君へ（八月八日）

きょうの抽選で法政二高と決った。横浜市内のチームらしい。試合はかけひきはうまいかも知れないが、こちらがあがりさえしなければそうかき回されまい。強敵だと思うが、みな不思議に落着きは

## がん張りましょうぜ

### 戸嶋、尾上両部長が抱負交わす

【大阪発】抽選会場で岩手高、戸嶋、法政二高、尾上両部長が初対面のあいさつを交しているところをつかまえ、〝かく闘う〟の気構えをこもごも話してもらった。

**戸嶋**　何しろ甲子園ははじめてで選手たちが上ちなければとそれが心配です。

**尾上**　うちだっておなじですよ。ただ田丸監督が二十七年に出場しており、ついてきたのでそのときの経験を活かしてもらうだけです。

**戸嶋**　第二日の第二試合では甲子園のふん囲気にもなじませる時間がないので……

**尾上**　そうですね。うちは浪華商か、桐生にぶつかったつもりで闘えといってあるので…岩手は打力があるでしょう。

**戸嶋**　県大会と東羽大会ではよく打ちました。その波が続いてくれれば大丈夫です。法政もよくコツコツあてるそうですが。

**尾上**　確実に鋭く打てというのがバッティングの基本でしてね。きのう（七日）甲子園で練習したのですが、割合によくあたっていました。

**戸嶋**　甲子園では打たなきゃ勝てませんからね。

**尾上**　うちは大物打ちはいないけど当りは強いですよ。甲子園は外野が深いから短打でも当りが鋭ければ二塁打、三塁打になるのでその点うちは得です。

**戸嶋**　それはうちも同じですよ。

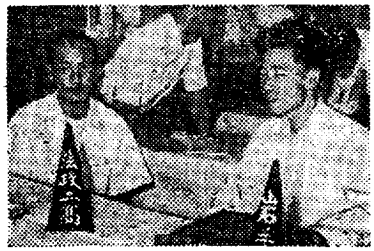
**尾上**　みんな元気ですか。

**戸嶋**　おかげさまで。とにかく東日本同士で闘うとは不運ですな。お互いにがんばりましょう。

**尾上**　よろしくお願いします。

らっているので心強い限りだ。今朝も九時から十分間甲子園で練習した。いくら短くても場数を踏んでおけと戸嶋先生はいっておられる。

新しいことばかりだが、なににつけ君たちの顔が浮ぶ、大阪弁を覚えて帰ったら君たちをまどつかせてやろうと楽しみにしている。



写真は対談する岩手高戸嶋（右）法政二高尾上両部長

昭和30年8月10日　朝日新聞　岩手版

# がん張れ岩手高

## きょう甲子園で初戦

### 相手は強豪の法政二高

【甲子園発】岩手高チームはいよいよきょう十日、神奈川代表法政二高と対戦する。県予選から奥羽予選へかけ熱戦八合、一歩一歩と踏み固め、勝ち進んで来た成果をいよいよ全国大会の晴れの舞台で闘うのだ。幸い全員故障なし、闘志一つぱい。戸嶋部長らはこれを試合で十分爆発させようとチームの動きをうまくリードしている。相手は試合巧者で鳴る法政二高。相手にペースを乱されるか、こちらのペースに巻き込むか、技量と技量よりも気力と気力の激突だ。"がん張れ、岩手高！"

### 当って砕けろ

#### ナインは闘志満々

○…ところで、この日を前に岩手高ナインがいかに意気高らかであるか、"一人一言"の録音をとってみた。全選手が郷土の皆さんへ贈る"甲子園の誓い"であろう。

**田中主将**　当って砕けろです。

**村川投手**　相手を必ずわたくしのペースに巻き込みます。

**名久井一塁手**　甲子園と意識せず市営球場のつもりでやります。

**平野二塁手**　相手にとって不足なしです。

**板垣三塁手**　相手がどんな奇襲策をとってもわたくしが必ず好処理します。

**小泉遊撃手**　村川君に苦労をかけぬようバックは引受けました。

**佐々木左翼手**　攻めても守っても球に食いつきます。

**田口（節）中堅手**　大いに打ちまくります。

**沢野遊撃手**　全力を尽して戦います。

**村井選手**　郷土のためにがんばります。

**松館選手**　村川さんが安心して投げられるようリリーフとしていつでも立てるよう準備しておきます。

**杉村選手**、**田口選手**　ただがんばります。甲子園の空気をのみ込み、来年、再来年また来ます。

**福田選手**　いつものつもりでやります。

**小田島マネジャー**　みなの世話は引受けました。

**戸嶋部長**　ともかくあらたまった気持ちではなく普通の態度で臨ませます。

○…最後に川村監督から秘策を聞かせてもらうと『うちのチームは東北人らしく"のんびり"しているし"じっくり型"です。法政二はこれにつけ入ってスピーディに試合を進めようとし、目先の変った攻撃で出てくるかもしれません。その逆手をとろうと思います。村川投手にもこれをいい含め、出来るだけタイミングを外し、相手のホコ先をかわさせます。案外"かからないぞ"と思わせたら勝てます。ともかく大きな大会で双方とも初出場と思えばよく器用なチームの方が地力のある大型チームより抑えやすいことは当然です』と期するところはあると自信深かげな口調だった。

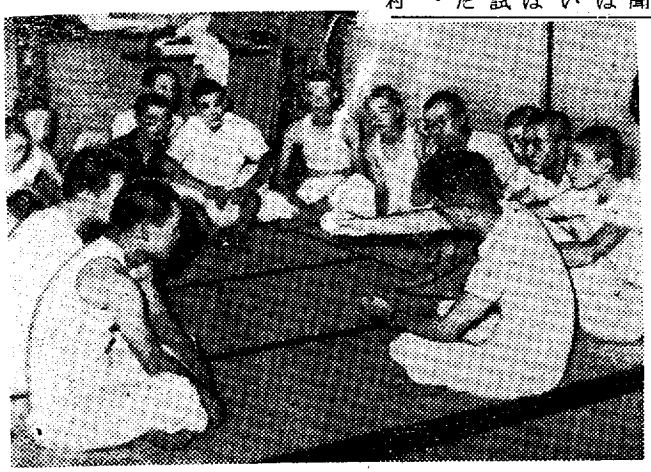
### 甲子園だより

○…今年の岩手高には"ケガの功名"というめでたいジンクスがある。まず県予選で対黒沢尻北のとき川村監督が腹痛だったが、これがコールドゲームで圧勝。県予選決勝のときはエース村川君がこれまた腹痛を起して投げたが見事完投して勝利投手。奥羽大会では平野二塁手にボールが当り、クチビルにバンソウコウをはって出場していた。こんどは沢野左翼手が自転車で転んで左腕を打った。包帯を巻いているが試合にはさしつかえないとのこと。そこで「ケガ人が出たが、こんども勝ったナ」の声。

○…全国の二十三出場校の中でも異彩を放っているのが、岩手高のたすさえてきた十六ミリ撮影機。盛岡出発からはじまり甲子園の初練習、選手茶話会など数々の名場面を選手たちがかわるがわる撮影技師となってこれに納めてある。「いい記録映画が出来るぞ」と完成をたのしみにしているが、さて題名となると諸説ブンプン。結局十日の試合に勝って景気のいい題名を考えようということになった。

○…九日午後には入場式の予行をやったが、西中国代表岩国工高のユニフォームをみると"GANKO"ガンコーとある。地元で「ガンコー」と呼ばれないんでいる岩手高ナインは「お株をとられた」と大笑い。

○…宿舎の西宮市三福旅館の主人池田吉次郎さんもすっかり岩手高のファン。試合の日には神戸にある勝負の神様猿田彦神社と、日ごろ信心している京都の伏見稲荷に必勝を祈りに行くといってきかない。伏見までは電車で往復四時間もかかる道のりだが「初発の電車に乗り、試合までには帰ってスタンドへ応援に行きます」と七十一歳の老人のこの熱の入れ方に一同感激した。



川村監督を囲み最後の秘策をねる岩手高ナイン

### 甲子園に思う

（終）

村松　昇氏（三）

今でもあの入場式の感激を思出すと眼前が明るくなるような気がします。戦後の二十四年の第三十一回大会に商業と合併した盛岡高校の三年、主将、右翼手兼リリーフ投手として出場しました。十一年に盛岡商が優勝して以来十余年振りに盛岡から甲子園にコマを進めたので先輩はもちろん、全市挙げて応援してくれました。県大会準決勝で7—0とシャットアウトされた黒沢尻北高を、奥羽大会決勝で逆に3—2と破って出場したのですから忘れられません。本大会では暑さにまけた上、営養をつけようとうまいものばかり食べすぎて腹をこわして、一回戦の平安高に18—7と破れました。でも私の人生には輝かしい思い出です。

#### 精神面の勉強も

岩手高は初出場だから、後輩に良いものをのこすために学ぶことを心掛け、いま出来つつあるよいチームカラーを育てるため精神面の勉強をして来てもらいたい。プレーの上ではグラウンドのバンドが強いこと外野のフェンスのはねかえりなどに気をつけたらよい。どうしても勝たうという気持も必要かもしれないが上ずりに、たんたんとした気持で"うまいプレーを"などという気を出さず良い試合をして下さい。帰る時にはサイン一つで動ける時にはサイン一つで動けるチームになって来て下さい。

（県工業指導所勤務、県審判協会員）。＝写真は村松氏

昭和30年8月11日　朝日新聞　全国版

八万の大観衆を前に行われた華麗な開会式

# 第37回高校野球開く

## 甲子園に八万の観衆

### 熱闘誓う球児三百二十

甲子園球場＝全国高校野球ファンの注目を甲子園に集めて、真夏の祭典、第三十七回全国高校野球選手権大会は十日午前十時、華麗な立体開会式で幕を切って落した。定刻一時間前には早くも内、外野ともほぼ満員、開会式のはじまるころには入場者は八万を数え戦後最高の記録をつくった。＝試合の詳報はスポーツ面に

定刻午前十時、ファンファーレが高らかに鳴りわたる。全関西吹奏楽連盟の二百余人が「野球行進曲」を演奏し出した。ライト後方に飾りつけたアーチをくぐって七人の市立尼崎高校の乙女たちに守られた大日章旗が球場に現れた。万雷の拍手。続くは昨年度優勝校中京商業の川島主将の持つ四十余年の歴史を刻む真紅の大優勝旗だ。その後につづく二十三チーム、三百二十余の選手が入場。これより先、球場の上空には新鋭機「天風」も加えた朝日新聞社の「初風」「朝風」「そよかぜ」「さち風」「若風」の六機が編隊を組んで銀翼燦々スレスレに豪快な祝福を投げ、「つばめ」「小鳩」の二機が「祝高校野球」などの字幕をなびかせながら大空に乱舞する。

"君が代"の吹奏ののち、全員起立のうちに各チームの主将の手でセンターポールに高々と大日章旗と大会旗が掲げられた。

大会会長村山朝日新聞社会長の開会の言葉、大優勝旗が川島中京商高主将から村山会長に返還された。松村文部大臣のあいさつ、中沢審判委員長の訓辞に答えて出場選手を代表して法政二高の吉沢主将が宣誓した。ついで野球界の功労者として美津濃株式会社社長水野利八氏が表彰された。再び飛行機が超低空飛行を敢行、空陸一体の開会式は終った。どよめきのうちに午前十一時十六分、サイレンとともに第一戦、静岡高対城東高の試合がはじまった。

### 第一日の勝敗（第一回戦）

城東高（南四国）3―0静岡高（山静）

岩手高（奥羽）3―0法政二高（神奈川）

新庄北高（東北）―伊那北高（信越）

# 岩手、法政二高を破る

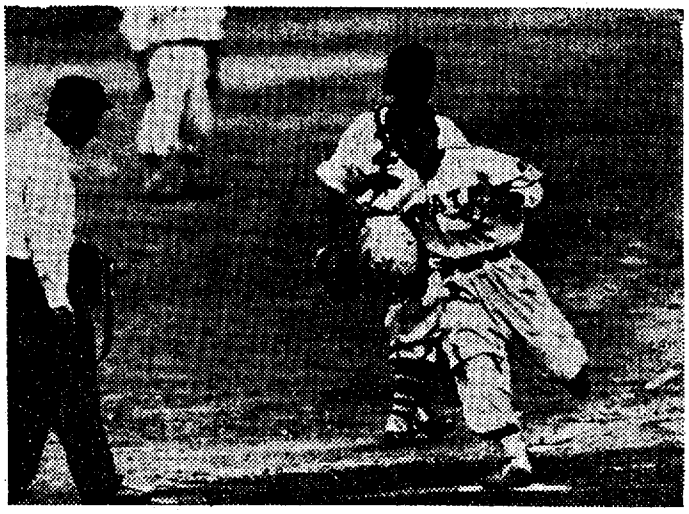
## 静岡高は城東高に惜敗

全国高校野球選手権

### 第一日

【甲子園発】第三十七回全国高校野球選手権大会第一日、十日の第一試合は開会式に引続き午前十一時十六分から、南四国代表城東高校と山静代表静岡高校の間で行われた。城東高が軟投の静岡高投手を巧みに攻め二点を先取すれば、静岡高も食い下って善戦したが、遂に最初の勝利は城東高の闘魂に輝いた。続く第二試合は神奈川代表の法政二高対初出場の奥羽代表、岩手高校。法政二高がいかにも都会チームらしいキビキビした動きをみせれば、岩手高はあげ潮に乗る打力にものをいわせ法政二高の堅陣を抜き勝利を握った。第三試合は共に初出場の信越代表の伊那北高と東北代表の新庄北高。新庄北が東北人らしいねばりでがんばれば、伊那北高は得意の打力で戦い、次々と激しい熱戦がくり展げられた。

きょう第二百の第一試合は大島投手をもつ東中国代表の玉島高と優勝候補の一つ桐生高とが対戦、第二試合は好投手岡崎のいる北四国代表の坂出高と荒削りの打撃チーム西中国代表の岩国工高が登場、第三試合は長打を誇る東京代表の日大三高対地元のダークホース、兵庫代表の神戸商高とがまみえる。



法政二高対岩手戦　一回裏岩手無死満塁のとき田中の中飛で板垣生還、捕手後藤、主審般若川

| | 法政二高 | 岩手高 |
|---|---|---|
| | 0 | 1 |
| | 0 | 0 |
| | 0 | 1 |
| | 0 | 0 |
| | 0 | 1 |
| | 0 | 0 |
| | 0 | 0 |
| | 0 | A |
| | 0 | 3 |

第二試合、神奈川代表法政二高対奥羽代表岩手高は午後一時三十一分法政二高先攻で開始、試合終了午後三時十八分。【審判】般若川（球）米谷、井上、猿丸（塁）

【評】岩手高は法政二高の機先を制して勝った。法政の敗退はやや番狂わせの感があった。一回法政の大泉が制球難で二つの四球を出したのち田口のバントを投手失し、岩手高は無死満塁の好機をつかみ、田中の左犠飛で一点。三回は板垣の安打と名久井のバント野選、田中の安打、小泉の中犠飛で一点と小刻みながら二点をリード した。日ごろ打棒を誇る法政は岩手の左腕村川の球に手を焼いて全然打てず、前半にはほとんどチャンスがなかった。勢いにのる岩手高は五回にも板垣、田中と二本の二塁打を集中し、また一点を加えた。

○…法政にとって惜まれるのは六回の好機を逃したことである。照屋がせっかく三塁ゴロ失に生きながら無死の二塁という冒険に倒れ、続く吉沢、坂田は連安打して出たが期待された大泉の右飛は岩手高沢野の美技に阻まれ遂に反攻の機会を逃がした。この試合で岩手高は真正面から取組んでいったのに対し、法政は策をろうしすぎて自滅してしまった。岩手高が実力を百%に発揮したのに反し、法政二高は相手を軽視したわけではないが、持てる力を十分に出しつくせずに敗れたのである。（久保田）

| 【法政二】 | 打 | 得 | 安 | 点 | 振 | 四 | 犠 | 盗 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (遊)吉沢 | 4 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| (二)坂田 | 4 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (中)熊倉 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (投)飯島 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| (右)大泉 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (一)宮 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (三)秋沢 | 3 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| (捕)二宮 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (左)根岸 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 30 | 0 | 5 | 0 | 5 | 1 | 1 | 0 | 3 |

| 【岩手】 | 打 | 得 | 安 | 点 | 振 | 四 | 犠 | 盗 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (三)板垣 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| (一)名久井 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| (中)田口 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| (捕)田中 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| (遊)小泉 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| (右)沢野 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (左)佐々木 | 4 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (投)村川 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (二)平野 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 26 | 3 | 5 | 3 | 8 | 4 | 4 | 1 | 2 |

▽三塁打＝大泉▽二塁打＝板垣田中▽併殺＝法1岩1▽野選＝坂田

# 岩手高、初陣の勝利

## 強敵法政二高を降す

### 甲子園大会　八万人の大観衆わく

【甲子園発】第三十七回全国高等野球選手権大会は始まった。そして第一日十日の第一、二試合で岩手高は強敵の神奈川代表法政二高を降した。しかもほとんど反攻の機会を許さない堂々たるシャット・アウト勝ちだった。岩手高の勝利が決ったとき"遠来の岩手高よくやった"と八万人のスタンドがどよめいた。それはこの日のもっとも大きな拍手の一つだった。好投の村川、魅惑の田中、好打の板垣、好走好守の内外野陣備揃い一丸となったチーム・ワークが大きな勝因だった。三塁側スタンドに陣どった岩手高応援団四千人の喜びは"甲子園よ、これをみてくれ"といわんばかりに踊り狂っていた。岩手高はまず第一戦を飾り第二回戦の相手は第三日第一試合終了後の抽選で決る。

法政二高　岩手高

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 法政二高 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岩手高 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | A | | | | | | | | | | 3 |

### 一点を先取

午後一時三十二分、殺川主審の右手がさっと上り法政二高の先攻で試合はじまる。

**経過**　◇一回　▽法政＝ツブの吉沢打撃十分にバッターボックスに立ったが、村川のカーブを見逃って三振。続く坂田もカーブを打って右飛。期待の殺コロ、村川カーブを多投する岩手＝板垣あがり気味の大柴投手のボールを遠んで四球。名久井への第一球目の時板垣三盗、名久井また四球。田口野手陣にパントしたのを大柴あわててハンブル、一塁に生きる。田中第一球目を打ったが中飛。三塁から板垣猛然とホームを衝き一点先取。小泉中飛、沢野遊飛でこの回一点にとどまる。（法政0岩手1）

◇二回　▽法政＝大柴ゴロ、宮投ゴロ、秋沢2－3からと真中直球を見逃って三振▼岩手＝佐々木ゴロ、村川遊飛、村川三塁ゴロ悪送球、平野もトロッフを見逃して三振。倒れる。大柴ようやく落着きをとりもどす。三塁側の法政二高ブラスバンドが法政大の応援歌を演奏してベンチにもどるアインを励ます。（両軍0）

◇三回　▽法政＝二宮一塁寄りに鋭いゴロを打ったが、二塁手に好捕される。根岸大いに満足で初めての走者を出す。照屋二飛、吉沢遊ゴロにうちとられる。左腕村川一球一球慎重に投じる。一塁側のブラスバンド"箱根の山"を奏でる▼岩手＝板垣左前安打、名久井二前にパントしたが、野選となり無死一、二塁。田口またパントしたが当りが強く板垣三塁で封殺される。田中の打球は二塁後へゆるく上ったが急遽左テキサス安打となり一死満塁。続く小泉はセンターに大飛球を放ち名久井三塁からの一点を加える。沢野三振。（法政0岩手1）

◇四回　▽法政＝坂田高目のボールを飛びつくように打ったが投ゴロ、熊倉三振、大柴外角球を流し打ち、打球は一、二塁間を破り、さらに右中間をも抜き幸運な三塁打となる。一塁側のブラスバンド、タイコをたたいて喜ぶ。村川投手は外野に「いくぞ」と声をかけての力投、高インドロを見逃し三振▼岩手＝佐々木左前に快打、村川遊ゴロで佐々木ともに併殺する。平野三ゴロ。（両軍0）

◇五回　▽法政＝秋沢中飛、二宮左前安打、一塁側のベンチで田丸監督がバッターボックスに入った熊倉は一塁に倒れ頭ヘ大柴はライト深く長打を放ったが野手後向きにこれを追い、転びそうになりながら好捕。スタンドから一斉に沢野をたたえる拍手がわく。法政監督はしきりにチャンスを強す▼岩手＝沢野投手は外野に「いくぞ」と声をかけての力投、高インドロを見逃し三振▼岩手＝佐々木左前に快打、村川遊ゴロで佐々木ともに併殺する。平野三ゴロ。（両軍0）

◇六回　▽法政＝熊倉三ゴロ失に生きたが、二塁盗塁、吉沢中前に安打、坂田三遊間を破って一死、一、二塁と反撃に出たが、三番の熊倉は一塁に倒れ頭ヘ大柴はライト深く長打を放ったが野手後向きにこれを追い、転びそうになりながら好捕。スタンドから一斉に沢野をたたえる拍手がわく。法政監督はしきりにチャンスを強す▼岩手＝沢野投手は外野に「いくぞ」と声をかけての力投、高インドロを見逃し三振▼岩手＝佐々木左前に快打、村川遊ゴロで佐々木ともに併殺する。平野三ゴロ。（両軍0）

◇七回　▽法政＝宮二塁の後、秋沢三ゴロ失で生きたが、二宮三塁盗塁、田口の投前パントに三刺される。野手三宮の熱球する岩手高応援団

◇八回　▽法政＝ブラスバンドに巻かれて根岸バッターボックスに入ったが三ゴロ。照屋ゴロ、吉沢の遊ゴロは三塁寄りの絶好のコースで内野安打となる。坂田、村川のインドロをかがむようにうちつけたが、見送って三振に倒れ、ゴロで5－3－5で併殺を喫す。三点も引き離して後半に入った岩手は ますます調子づき、村川投手の顔には前半に見られなかった微笑が時折浮ぶ▼岩手＝板垣三振、名久井右飛で早くも一死、田口大きく落ちるドロップを見送って三振に倒れる。（両軍0）

◇九回　▽法政＝田丸監督ベンチ前にナインを集めて何か作戦を授け、ブラスバンドも活気を帯びる。ナインも掛け声をあげて最後の攻撃に移る。熊倉に代った飯島ベットを上下に強く振りながら後ろ三点も引き離して後半に入った岩手は ますます調子づき、村川投手の顔には前半に見られなかった微笑が時折浮ぶ▼岩手＝板垣三振、名久井右飛で早くも一死、田口大きく落ちるドロップを見送って三振に倒れる。（両軍0）

◇八回　▽法政＝ブラスバンドに巻かれて根岸バッターボックスに入ったが三ゴロ。照屋ゴロ、吉沢の遊ゴロは三塁寄りの絶好のコースで内野安打となる。坂田、村川のインドロをかがむようにうちつけたが、見送って三振に倒れ、

◇九回　▽法政＝田丸監督ベンチ前にナインを集めて何か作戦を授け、ブラスバンドも活気を帯びる。ナインも掛け声をあげて最後の攻撃に移る。熊倉に代った飯島（この回から法政の中堅は飯島に代る）田中中飛、小泉遊んで二塁に出て沢野への第一球にスルスルと二盗に成功したが、沢野、佐々木ともに三振に倒れる。（両軍0）

### 法政にあせり

【評】試合前の下馬評では法政がわずかに優勢を伝えられていたが、初陣の岩手はこの予想を見事打破して法政に快勝した。岩手は一回法政投手の力を出し切れずに乗じて二回球とパント、野選で好機をつかみ、田中の中飛で生気を落著かせる結果となったことは見逃せない。さらに岩手は三回は中飛、五回には田中の二塁打でそれぞれ一点を追加したときには大勢は決した感が深かった。法政は左腕村川が慎重に投げる球に対して積極的に打ち出す二塁打と内野安打という貧欲ぶりだった。ところが六回、二塁失ではじめてトップ打者を迎えたが、照屋、吉沢のヒット・エンド・ランは田川の低球に吉沢手が出て盗塁死の結果に終った。その後吉沢、坂田が連打したことを思えばこの盗塁死は法政の反撃の芽を摘みとってしまっただけに惜しまれるプレイだった。この回一死後大柴の放った右翼線打を好捕されてしまっては勝運から見放されたも同然だった。法政は完敗したものの力を出し切れず敗れさったようにみえる。一方岩手は日ごろの力を十分発揮したわけではあるまいか。村川田中のバッテリーを中心にじっくり先攻点を守り切って初陣を飾った。この試合第二回の攻防が善いた試合であったといっても過言ではないが、いつでも打ち返せるという気持が法政ナインの心底に動いていたようにも見受けられた。回を追うにつれてこの自信があせりとなり、法政は村川の左腕に対して逆に反発で当ってしまったのは

堂々入場する晴れ代表岩手高チーム

### 小泉、大飛球

### 好打相つぐ

### 入場式に割れる拍手

【甲子園発】二日目から始った大会開会式でわが代表岩手高チームは第三番に続いて十七番目に入場した。東羽大会憲勝旗を掲げる田中主将はじめ一歩一歩甲子園の土を踏む全選手の顔は誇らかな表情で輝いていた。甲子園スタンドもはるかなるみちのくから訪れた チームを迎え、その列に近づくと拍手の波がひとしお高く起っていた。

### スポット裏がら

**撮影班が大活躍**

○…すでに紹介した岩手高の十六ミリ撮影班はこの日甲子園スタンド狭しとばかりに大活躍、入場式のプレー、三塁側応援団席をスタンド上段から、下段から、内野席を縦横に走り回ってフィルムに納めた。

**見ン事、予想覆えす**

○…法政二、岩手高戦の試合早刻をあちこちで聞けばだれもが三分くらいで、法政二高の打力を賞っている。「またぐらが劣勢が、黒羽大会の秋田高や八戸高を相手にした時でもそうだった」と岩高選手たちは却って固りがっている。「これを覆えすのはお手のものだよ」と見事にそれを実現した。

みる者にとってはもの足りない戦であったともいえる。（好村）

### その日の残勲者

【甲子園発】二塁手立野富三君（十九）六回一死走者一、二塁で法政好の反撃機に四番大柴の放った右翼線打球を捕球、中間をかく殺う大飛球を背走をかさねて追いかけるこの三塁打コースで追われる身のまま法政二高の打撃を抑えることができなかった。おそらくきょうの日を終生忘れはしまい。この感謂は小田島君が援助している十六人がそのまま法政に対してくれるだろう。

▽…一時からはいよいよ法政二高と戦う。試が終るとすぐ近くの田場中学で練習。全力を尽してがんばるよ。

### 甲子園だより

【甲子園発】二塁手立野富三君から級友の細川勝雄君へ（十日）

▽…全開会式を終えた。いいようもない感激で胸がいっぱいだ。内外野の大スタンドのものすごい大観衆。盛岡中の人が全員入ってしまうのじゃないかと思うくらいだ。二塁に拍手が起るとまるで鳴り鳴りわたるようだった。二百人の高校生の大ブラスバンド、群れ飛ぶ飛行機、その中を全国の代表級とともに選ばれたのだ。興奮でなかなか身がふるえるのを抑えることができなかった。

○…法政二高戦の試合早刻は、ちょっとあっけなかったが、「もう勝ったの…」といいながら手をたたいて喜んでいた。

○…一回表に無死満塁から先取得点をあげた時は一斉に"ワー"という喜びの声をあげていた。試合が始まると知人から「勝つようお祝いしています」という電話がしきりにかかり、勝利と決ってからは「おめでとう」という電話がしっきりなし。近所の人が続々とお祝につめかけ、お母さんはうれしさをかくしきれない顔で「あの子もとんなにうれしいでしょう。有難うございました。お陰さまでした」と繰返していた。兄の公助さんは遠くお祝だと甲子園へ祝電を申込み、家中喜びにあふれていた。

### ラジオかけっ放し

**その日の郷土の表情**

○…岩手高校が先取点をあげた十日午後一時半すぎ、地元盛岡では折柴しく強い雨が降りはじめラジオ屋前の人だかりは飛散したが、市内青町東大通りの商店街では軒並みにラジオをかけっ放し、ラジオのわきに張りこんだ店のムネ断大書のお客さまも何のその有機。雨に思わぬもうけをしたのが市内の喫茶店、レコード各田子園野球放送に切換え、雨でかけつけお客さんに無別サービスの音楽をくましさ、コーヒー一杯いかがはいにたりホクホク顔。

○…商用のため田子園まで出掛けられなかった岩手高山中校長、大沢川原の自宅でラジオを抱えて初出場の生徒の熱戦ぶりにヤキモキ、ヤキモキ、一投一打に身を入れて甲子園へ行けばよかったとジダンダ踏むことしきり。

○…初陣の岩手高が神奈川代表法政二高を破った。思わぬ勝ち越しに賞は大きい。その一つ盛岡市内の高校生の大ブラスバンド、群れ飛ぶ飛行機、その中を全国の代表級とともに選ばれたのだ。興奮でなかなか身がふるえるのを抑えることができなかった。

○…法政二高戦の試合早刻は、ちょっとあっけなかったが、「もう勝ったの…」といいながら手をたたいて喜んでいた。

○…一回表に無死満塁から先取得点をあげた時は一斉に"ワー"という喜びの声をあげていた。試合が始まると知人から「勝つようお祝いしています」という電話がしきりにかかり、勝利と決ってからは「おめでとう」という電話がしっきりなし。近所の人が続々とお祝につめかけ、お母さんはうれしさをかくしきれない顔で「あの子もとんなにうれしいでしょう。有難うございました。お陰さまでした」と繰返していた。兄の公助さんは遠くお祝だと甲子園へ祝電を申込み、家中喜びにあふれていた。

### 相好崩すお母さん

**わきかえる村川投手の家**

○…初陣の岩手高が神奈川代表法政二高を破った思わぬ勝ち越しに賞は大きい。その一つ盛岡市内の高校生の大ブラスバンド、群れ飛ぶ飛行機、その中を全国の代表級とともに選ばれたのだ。興奮でなかなか身がふるえるのを抑えることができなかった。

○…法政二高戦の試合早刻は、ちょっとあっけなかったが、「もう勝ったの…」といいながら手をたたいて喜んでいた。

○…一回表に無死満塁から先取得点をあげた時は一斉に"ワー"という喜びの声をあげていた。試合が始まると知人から「勝つようお祝いしています」という電話がしきりにかかり、勝利と決ってからは「おめでとう」という電話がしっきりなし。近所の人が続々とお祝につめかけ、お母さんはうれしさをかくしきれない顔で「あの子もとんなにうれしいでしょう。有難うございました。お陰さまでした」と繰返していた。兄の公助さんは遠くお祝だと甲子園へ祝電を申込み、家中喜びにあふれていた。

茅町の村川投手の家では父の徳之助さんが盛岡酒類組合へ出勤して留守だったが母キンさん、兄公助さんらが「勝ったの…」と大喜びであった。

### みなよくやった

**戸嶋部長の話**

【甲子園発】戸嶋野球部長は「みな、一致よくやってくれた。開会式に続くあとの試合なので疲労が出はしないかと心配だった。だから試が終ったら第二試合もみなせないですぐ外で休ませ、なるべく選手の緊張をほぐした。これがよかったと思う。またきょうは涼しかったので村川も投げ易かったようだ」と大喜びであった。

**とても楽しい試合**

**田中主将の話**　うれしくて胸がいっぱいです。甲子園でも決しておそろしくないと自信がついて来ました。あんまりみなのプレーがうまいくいので試合の後半は楽しくて仕方がなかった。第二戦もぜひ勝ちます。

昭和30年8月12日　朝日新聞　岩手版

# きょう決る相手校

## 岩手高 コンディションは上々

【甲子園発】法政二高を降した岩手高チームは次の試合まで二日ないし三日の余裕が出来た。勝利の十日夜選手たちは次から次へと舞込む祝電の一つ一つを声高く読み上げてはドッとよろこびの声をあげていたが、やはり大阪入りしてからこの日まで緊張の連続で疲れてしんどいのか、みな早く寝ついた。次の相手校はきょう十一日第二試合終了後の抽選で決まる。小倉か、桐生か、どこの代表校か、いずれにしても強敵には違いない。だが岩手高ナインは元気オオセイである。

十一日は朝全員が甲子園スタンドで桐生高と玉島高の試合を観戦したあと西宮市民グラウンドで一時間ばかり練習した。「選手たちは今身体も精神的にも最上の状態にある。この波をもっとのばせば次の試合も必ず勝てる」と戸鳴部長はよろこんでいる。

### 祝電百二十七通

○…十日夜岩手高に舞込んだ祝電はわずか二時間ほどの間になんと百二十七通。ついには電報配達人に気の毒になって「どうもたびたび」とあやまる有様。だが配達人も「いや勝ってうれしいでしょう。高校野球は感激深いですからね。次の試合にもまたこうしてもって来ますよ」と理解のあること。

○…岩手高の試合の応援に来たのを機会に大阪にも県人会のしっかりした組織をつくろうという話がもち上った。提唱者は日本アルミ会社の石川俊貞社長。この人は一関中学出身で今春の選抜大会に一関一高が出場したときも応援にかけずり回ったほど野球好きの社長さんだ。数々の援助を申出るが遠慮がちな戸鳴部長らにお国柄も忘れて「ほんとうに岩手の人はつつしみ深い」――

# また郷里へ朗報か

## 岩手高・きょう坂出商と対戦

【甲子園発】岩手高はきょう十四日正午から第二の相手校北四国代表の坂出商高と対決する。法政二高を降してから四日間、英気を養いつづけてきた岩手高ナインは〝全員がトップ・コンディション〟にある〟（戸嶋部長談）といわれ、きょうもまた郷土への再度の朗報が期待される。

十三日には試合と同じ時間を選んで午後一時から西宮市立高校グラウンドで一時間の練習をしたが、フリーバッティングでは田中主将がたびたび場外へ飛び出す大きな当りをみせているのをはじめ、全選手のスイングが目にみえて鋭くなってきたのは頼もしい限り。

「村川投手も法政二高に投げたころより確かに調子が上ってきている」と川村監督は折紙をつけている。同監督の坂出商に対する必勝の構えは「坂出商は立上りが悪いらしいからまずこれをたたいて行く。北四国大会に審判をした綴治川は〝迫力の乏しいチームだ〟と評しているので先取得点を取れば押し切れるだろうし、逆に先取得点を取られてもこちらが落着いて粘っていけば逆転出来ると思う。岡崎投手はアウトロのほかにカーブを多投するらしいが、うちの選手はカーブには自信がある。中でも田中が当ってきたのは何といっても心強い」という。

### 甲子園だより

**名久井光文二塁手から友人の盛岡市加賀野鳥沿久子さんへ（十三日）**

明日は坂出商高と対戦します。ボクたちが甲子園へ出場し、こうして二回戦へ勝ち進むなどとは一カ月ばかり前には夢にも思いませんでした。強敵がずいぶんありましたからね。しかし法政二高に勝ってからはみなすっかり自信をつけました。ボクは前の試合では一本も安打が出ませんでしたので、明日の試合にはその分までカットとばす意気込みです。自慢の腕で、持参のカメラにもう六十枚ばかり写しました。きっとすばらしい甲子園アルバムが出来ることと思います。

# 岩手高、坂出商と大いに語る

## なごやかに……だが虚々実々

### 試合となればスキをみて互いに切込まん

【甲子園発】岩手高がきょう対戦する坂出商高の宿舎は岩手高の宿舎から歩いて五分もかからないほどすぐ近所。そこで岩手高戸嶋部長、田中主将が十三日坂出商高岩田監督、山科主将と、互いに情報を交わしながら「互いに全力を尽して闘いましょう」となごやかに語り合った。

写真は左から岩手高田中主将、戸嶋部長、坂出商高岩田監督、山科主将

**岩田**（坂出）私のチームはいままで守備のチームといわれてきました。それも岡崎投手に大きく頼ってきたチームです。打線も大物打ちばいないかわり、下位打者まで一応切れ目はないといえるのですが、どうも頼りなくって……

**戸嶋**（岩手）うちは県予選から地方大会へかけてあまり下馬評にのぼらなかったのですがね。打撃が小刻みながらよく当ったので、いわば波にのってできたのです。村川投手は平凡な投手ですよ。

**岩田**　左投げだそうですね。

**田中**（岩手）ええ。スピードはありません。シュートボールとドロップが多少いいくらいで、よく打たれます。集中打はあまり受けません。バッターとのかけ引はうまい方でしょう。

**岩田**　岡崎投手は右からの上手投げアウトロが武器といえます。これもプレート度胸は満点でピンチに強いです。岩国工とやるときはちょっと熱を出していたので苦しみましたが、もうなおったから次の試合ではかなりやるでしょう。

**戸嶋**　バッティングはどうです。

**岩田**　あんまり自慢できません。

予選に入るまでは三割一分のチーム打率をもっていたのですが、以後は二割そこそこになりましてね。ともかく身体の小さい選手が多くて力が弱いのです。内野は一塁を除いて身長が1尺60ないのですからね。

**戸嶋**　こりゃ似てますね。うちのところも三塁と二塁がチビで…（笑い）そのかわり重心が低いから（笑）守備は地味ですが、内外野ともになかなか固いですよ。

**山科**（坂出）私のところもそうです（笑い）岩手のチーム打率はどれくらいですか。

**戸嶋**　予選では二割六分くらいでした。一番、二番、五番あたりがよく打っていましたが、これも気まぐれで、ともかく別にこわいバッターはありませんよ。（双方ともこのあたりひかえ目な言葉で虚々実々）

**岩田**　じゃあ結局双方ともスケールは小さいながらこれという欠陥もなくスキを見て切り込んでいくチームですな。

**戸嶋**　ですから先取得点をせひとりたいですよ。

**山科**　岡崎投手を盛りたててガッチリと組うつもりです。

**田中**　私たちも監督のリードで相手の欠陥を衝いて行きます。

**岩田**　対外試合の経験は豊富ですか。

**戸嶋**　いや日本一の大県で広いものだから主に県内だけです。

**岩田**　うちの香川県は日本で二番目に小さい県ですから、この点だけ正反対でしたね。（笑）

昭和30年8月15日　朝日新聞　全国版

# 岩手、六回に崩れる

## 桐生、日大三高に敗る

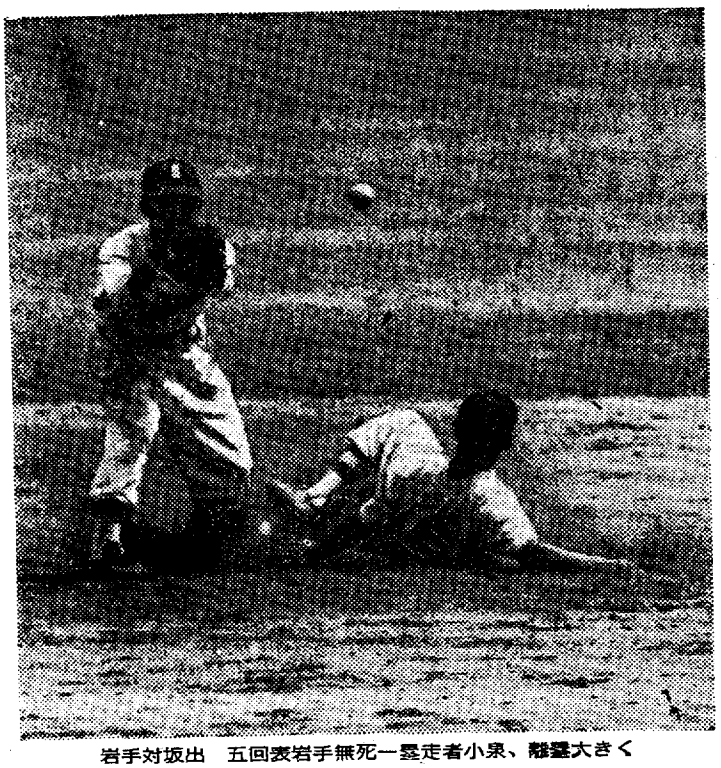
対坂出商

全国高校野球選手権

### 第五日

【甲子園発】全国高校野球選手権大会第五日の十四日はベストエイトへの進出を目指す最後の熱戦が繰りひろげられた。この日は四国の両雄城東高と坂出商がそろって出場、第一試合で城東高はねばり強い信越代表の伊那北高の追撃を振切って堂々準々決勝へコマを進め、第二試合は岩手高の懸命の反撃も及ばず遂に坂出商の打力の前に屈し、ここに四国代表は二校が堂々準々決勝へそろって進出した。桐生高対日大三高の第三試合はグラウンド一杯に力のこもった熱戦を展開し、スタンドをわき立たせた。

六日目の十五日はいよいよ晴れの準々決勝――好守、好打のうちによく勝ち進んだベストエイトが勝利の栄冠を目前に力一杯のプレーを展開する。十四日の第一試合終了後抽選の結果、第一試合は四日市対城東高、第二試合は新宮高が再びA級中京商と顔を合せるが、強豪と試合巧者のこの顔合せは優勝をかけての大熱戦となろう。



岩手対坂出　五回表岩手無死一塁走者小泉、離塁大きく
捕手ケン制の間に二進、野手大喜多

◇二回戦

| | | |
|---|---|---|
| 岩手高 | 000 001 000 | 1 |
| 坂出商高 | 010 002 00A | 3 |

第二試合奥羽代表岩手高対北四国代表坂出商の試合は十二時三十三分時分から岩手高の先攻で開始、二時二十五分終了。（審判）小沢（主）小西、猿丸、乾（塁）

【評】坂出商の岡崎、岩手の村川両投手ともスピードのない一見平凡な投球だったが、前半を1―1で終った。両チームの打線が悪球に手を出していたこともあるが、それよりも巧みにコーナーを使い分けた両投手のうまいピッチングに悩まされていたというのが当っていよう。

⑩…打気にはやる坂出商を際わどいコースに投げて前半二安打に抑えていた岩手の村川も六回味方の守備陣の手痛い失策から点を失った。二、三番打者をうまく凡打させたあと山科に左前テキサス安打され、二盗を許したが、続く中川が平凡な遊ゴロ、ところが、野手これをハンブルしなおかつ三塁に走者が進んでいるにもかかわらず捕手が遊ゴロのとき一塁カバーに回り込もうとして本塁を留守にするボン・ヘッド、ために三塁走者の山科の生還を許してしまった。

⑩…加えて走者中川も三進、このピンチに村川は岡崎を死球に出し水本には左前適時打されてこの回与えずともよい二点を奪われた。これで形勢はすっかり変り、その後坂出商の優勢に終始した。岩手の演じた六回の二失がなければ村川が健闘していただけにもっとクロスしたゲームとなったろう。

| 【岩手】 | 打 | 得 | 安 | 点 | 振 | 四 | 犠 | 盗 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (三)板垣 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (一)名久井 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (中)田口 | 4 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (捕)田中 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| (遊)小泉 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| (右)沢野 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (左)佐々木 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (投)村川 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| (二)平野 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 30 | 1 | 4 | 1 | 8 | 0 | 1 | 1 | 3 |

| 【坂出商】 | 打 | 得 | 安 | 点 | 振 | 四 | 犠 | 盗 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (三)山地 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (中)山田 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (二)黒田 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (左)山科 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| (捕)中川 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| (投)岡崎 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| (一)水本 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (右)大東 | 4 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (遊)大喜多 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 28 | 3 | 6 | 2 | 2 | 6 | 1 | 1 | 0 |

▽ボーク―村川▽併殺―岩2

昭和30年8月15日　朝日新聞　岩手版

# 岩手高、坂出商に惜敗

## 後半の反撃も空し

### 六回に致命的な二点

右岩手―坂出五回表、岩手二死、三塁走者小泉、村川の中前安打に生還、捕手中川、球審小沢　左岩手の応援団

【甲子園発】甲子園大会第五日の十四日、二回戦第二試合でわが岩手高は優勝候補、坂出商高に敗れた。岩手高は手堅い守備を続けた村川投手が、この日二回表にわかに制球難に陥り、先制の一点を坂出商に与えたが五回表小泉、村川の快打で同点に持ち込みその真価を発揮、なおリードの機会をうかがった。しかし〝魔の六回裏〟の二死後、内野安打のあと名手の小泉の手痛い一失に続き、連続打を浴びて致命的な二点のリードを許してしまった。

岩手高の健闘は甲子園の大観衆の共感を呼び、過半の観衆の声援をうけながら七、八、九回ネバリ強い反攻を試みたが、遂に坂出商岡崎投手の右腕に封じられた。だが岩手高は初陣ながら終始よく戦った。ドロと汗で真っ黒となったユニフォーム姿の選手たちが甲子園球場から退場するとき、〝来年また来いよ〟の激励の言葉が数多く投げかけられていた。

### 村川、二回に動揺

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岩手 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 坂出 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | A | 3 |

【経過】◇一回　▽岩手―坂垣三振、名久井遊ゴロ、田口三振▼坂出―山地一飛、山田、黒田ともに三ゴロに倒れ、この回両軍凡退。

◇二回　▽岩手―田中三振、小泉つまって打ち二飛、第一塁の後藤者沢田中堅にきれいな安打、佐々木外角への直球を見逃し三振▼坂出―山科四球、中川一塁線に送りバント、捕手出足よく捕って一塁に刺す。山科一遊。岡崎中堅右に安打、山科還って一点を先取。動揺した村川ちょっと乱れて水本に四球、一死一、二塁となる。大東高い左飛で二死となるが、大喜多四球で二死満塁。こわばった表情の村川ストレートのボール三つ山田に与える。小泉遊撃手プレートにかけ寄り村川の肩をたたいて励ます。村川うなずいて2―3に追い込み山地を高い左飛に打ちとる。岩手のベンチホッとした面持ちでベンチに還るナインのグローブなど受取り笑顔に満ちる。（岩手0坂出1）

◇三回　▽岩手―村川三振、平野遊ゴロ、板垣左飛。岡崎投手シュートと外角をたくみにつかいわけ岩手の各打者をけんわくする▼坂出―山田三遊間をゴロでぬく。黒田の遊ゴロで山田二封、ボールは二塁から一塁に転送されたが、あやうくセーフ。山科の当りはかなり強く一塁に転がったが、4―6―3と見事な転送で併殺される。

◇四回　▽岩手―名久井右飛、田口見送りの二振、田中の打球はバットの〝芯〟に当りライナーとなってレフトに飛んだが真正面▼坂出―中川遊ゴロ、岡崎2―3から選んで一塁に歩く。村川外野に「いくぞ」と両手を挙げて声をかける。水本三ゴロで5―4―3でまた併殺を喫す。（両軍0）

◇五回　▽岩手―小泉一球目をいきなり快打、遊撃手ジャンプしたがボールはレフト前に落ちる。二球目のとき小泉砂けりをあけて二盗、沢野の三ゴロで三塁、佐々木投前にスクイズしたがサインの不徹底から小泉ホームをつかず佐々木アウト。村川一球目の好球をたたいて遊撃右を抜き小泉打球をみながらゆうゆうホームベースを踏んで同点、平野三ゴロ▼坂出―大東空振りの三振、大喜多深い中飛、山地ライナーの左飛。（岩手1坂出0）

◇六回　▽岩手―この回打順よくトップの板垣からはじまる。三球目を打ったがバットが折れ投ゴロに終る。名久井二ゴロ、田口空を抜いたスロボールを打って高い捕飛。▼坂出―山田2―一後ファールでネバったが遊ゴロ、黒田投ゴロ、山科左前にテキサス安打、続く中川一球目をレフトに大きくあげたが、遊撃手これをあせってハンブル捕手一塁後方にバックアップする間に山科ホームを衝き、捕手あわててホームベースに還って遊撃からの返球をうけタッチしたが山科の勢いに押されて落球、山科あやうくセーフで二点を加える。岡崎右足に死球、水本の左前安打で中川塁から還ってまた一死、大東三遊間を破ってなお二死ながら満塁と攻めつけたが、大喜多二ゴロで二点にとどまる。（岩手0坂出2）

### 惜しい遊撃の失策

◇七回　▽岩手―田中高い捕邪飛、小泉三ゴロ、野沢遊ゴロで凡退▼坂出―山田三ゴロ、山田また三遊間をきれいに破る。村川二球目のとき、小沢主審ボークを宣し、山田二塁、黒田の投ゴロで山田2―3間はさまれたが村川が悪投し山田二塁にセーフ。山科球でまた一死満塁のチャンスをつかむ。中川スクイズ失敗で山田3―本間に立往生、捕手に追いかけられて三塁ベース近くで左肩にタッチされる。一、二塁走者はその間に一、三塁に進んだが、中川二飛。岩手よく危機を脱す。（両軍0）

◇八回　▽岩手―佐々木三塁強襲の安打、村川の投前バントと平野の二ゴロで三進するが、板垣三ゴロに倒れる。▼坂出―岡崎遊ゴロ、水本右飛、矢東カラ振りの三振。（両軍0）

◇九回　▽岩手一塁側絶立ちとなって最後の攻撃にうつる岩手ナインをはげます。名久井左飛、田口見逃がせばボールの外角高目を空振りして三振、田中ドロップをすくい上げるように打ったが空振りして三振。午後二時二十五分スタンドの担手を浴びながら応援団に頭をペコペコ下げたが「よくやった、よくやった」と応援の人たちから激賞の声があちこちに起った。

#### 「よく闘ってくれた」

**岩手高野球部長の話**　選手たちは本当によく敢闘したと感謝しています。いまのチームは非常に団結心が固く、憶せず思びのいいチームカラーを残してくれました、今後もこれを育て、さらに実力を養いたいと思います。

**川村監督の談**　ピンチにも動ぜず、チームワークがよいのが私のチームの強みでした。きょうは失策で試合に敗れましたが、何か精神的に落着かぬものがあったようです。この点で監督として責任を感じています。

**田中主将の話**　根限りやったのですが、敗れました。悔いはありません。

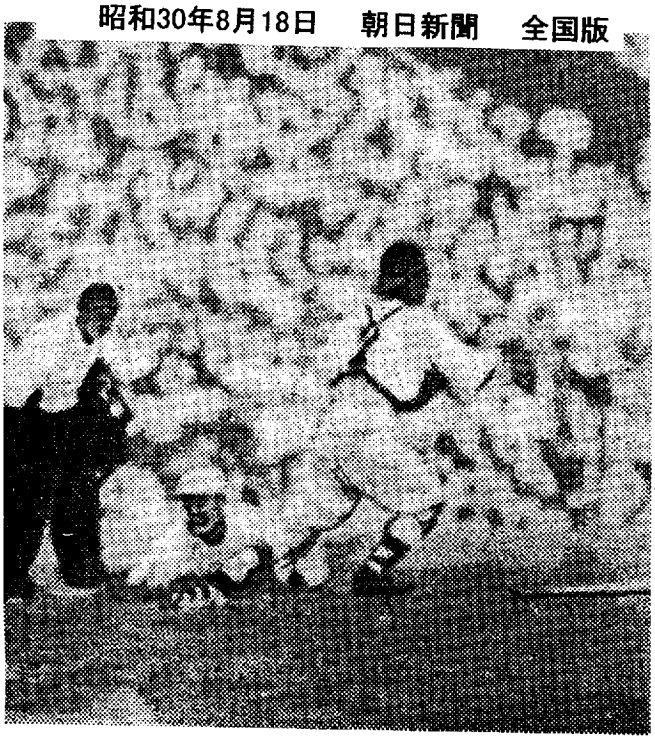
**村川投手の話**　肩に力が入りすぎて球が低目に流れました。相手の打者もよく打ちました。来年を期してがん張ります。

## 六回に守備陣混乱

### ⑩……捕手の不手際が響く

【評】岩手高は第一日に法政二高を3―0で破った時と同じような闘志を抱いて坂出と対戦したが、この日の相手は法政二高のようなけれんみの多いプレーをせず、慎重に戦っていたので実にやりにくい試合となった。左腕村川は例の如く落着き払ったピッチングでスタートし、第一回は三者凡退に打ちとったが、第二回四番打者の山科を警戒しすぎくさい球で攻め立てたが、これがみんなボールとなり、無死で四球を出したのはまずかった。次打者はバントし、送り二塁の時一一後の直球を岡崎に二塁右へ流打され、一点を先んじられた。その後村川は好投して坂出を抑えていたのであるから、岩手のバッティングさえ振えばすぐにとり返すものと思われたが、坂出の岡崎投手のアウトシュートの球に手をやき、四回までは会系その機会はなかった。しかし第五回小泉が左前安打し、次打者の沢野がバントとみせかける時、小泉が素走く二塁を盗んだのは感嘆な好プレーとして賞賛される。一塁を大きく離塁し、捕手に一塁へ投球させるそのすきに二塁に突入するトリックプレーが成功したのである。この回スクイズプレーのサインが決定寸前に、佐々木がムダにバントをして二死となったが、次に村川が投手足下を抜く快打を放って同点にしたのは殊勲であった。しかしその同点も束の間で、岩手の守備は六回二死後から混乱し、致命の二点を坂出に与えてしまった。二死二塁走者のとき中川の遊撃ゴロを小泉が失し、そのスキに二塁走者は本塁をつくと捕手の田中は一塁へバックアップしようと、一塁へスタートしていたので本塁への帰塁が遅れ、そこへ遊撃手からの球が送られて来たが走者と衝突して暴投し、与えるすもがなの失点を許し、その後の安打で合計二点の負け越しとなった。

岩手の敗因となった六回の守備につき一言しておくが、甲子園のような広い球場では、捕手の一塁バックアップということは鉄則であるが、これは他に走者のいない場合であって、塁に走者のある際に捕手が本塁を空にするということは絶対いけない。田中捕手は残念ながらこの回錯覚を起して、本塁を留守にしてしまった。今後注意すべきであると思う。（久保田）



決勝戦　二回表四日市高佐藤、寺本の右翼安打に一塁から三進、さらに本塁を衝き野手の好送球に刺さる。捕手中川、球審久保田

全国高校野球選手権

—最終日—

# 高橋（四日市）の左腕強し

## 疲労抑え善闘の坂出商

試合は午後二時二分四日市の先攻で開始。審判久保田（主）相田、布谷、山本（塁）終了四時二十八分。

◇決勝

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 四日市高 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 4 |
| 坂出商 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |

【評】強豪がマクラを並べて倒れ、つきつきに姿を消したので優勝戦はダークホース対ダークホースの対決となった。おそらく甲子園の球史上でも異例の記録ではないだろうか。四日市の高橋はかねてから新宮の前岡や小倉の畑とともに、左腕の三羽ガラスとして高く評価された逸材。坂出の岡崎は一見平凡だが、相手の意表をつく投球と変化に富む球さばきは非凡で、技巧派投手の典型である。巨大な体と小柄な身体も対照的であった。

⑭…四日市は一回伊藤政、高橋、成瀬と三安打を集中し、幸先のよい一点を先取した。中でも二死一二塁に走者をおいて遊前に放った成瀬の一打は殊勲である。岡崎は連戦に疲れ果てたためか、どうもこの回のピッチングには球威なく、得意の低目を攻める球もみられず、走者ある場合には禁物とされている高目の凡球を成瀬に与え痛打を浴びたのである。

⑮…坂出は制球力豊かな高橋の速球とインドロをねらって一球をも見逃さぬという積極的な攻めぶりを示したが、高橋の巨体を利す球威に押され、得意の打棒を発揮する暇もなかった。四日市は三回二死後から高橋、成瀬、筒井が再び三安打を集中し一点を加えた。きょうの岡崎の球には全然伸びがなく前日までの好投の面影は少しもうかがわれず、得点は2—0と開いて坂出は早くも苦戦に陥った。

その裏　大東苦肉のセーフティバントによる無死の内野安打も、次打者の送りバントの失敗から封殺されて実を結ばず、折角のチャンスも逃がし、四回も山科の四球と中川の一死後の送りバントは投手の二塁悪投となり再び好機は到来したが、期待の岡崎、水本はともに高橋のインドロにほんろうされ三振にやんだ。

⑯…押され気味だった坂出も六回にはとうとう三度目の好機を迎え今度はものにして2—1と迫った。大会随一の当り屋山田の安打に始まり、中川が二死2—3後放った左前安打で山田は二塁から長駆還り、その差一点に縮め、なお岡崎の遊撃右を襲う安打で走者一、三塁となり、一打同点の場面を迎え、試合は初めて白熱を帯びた。しかし打者水本が2—2のカウントの際に一塁走者は二塁を盗もうとして投手のけん制で二塁寸前でアウトとなったのは不覚な走塁ぶりというべきだろう。

⑰…岡崎が打たれながらも四回以後七回まで四日市を無得点に抑えたのは要所要所でシュートを用いたからであり、また五回伊藤（政）の三塁打性の当りを好捕した山田の美技にも救われていた。しかしこれもツカの間であった。四日市高の八回は荒木の安打後、高橋の二塁手真正面のダブル・プレーコースの当りが不規則バウンドして安打となると、がぜん四日市は色めき成瀬は敵遠されたが、筒井の二塁ゴロで一点、伊藤（大）のスクイズは見破られて高橋を殺したが、捕手の三塁悪投で成瀬が還り二点を加えた。

⑱…坂出は4—1の劣勢にもめげずねばり抜き、その裏山田、黒田の二安打を足がかりとして二死満塁と詰め寄ったが、岡崎は2—3のどたん場で高橋の速球に攻めつけられ惜しくも三塁凡ゴロに終りついに最後の反攻の機を逃した。

⑲…試合は前半四日市の一人舞台であったが後半しつような坂出の肉薄で優勝戦らしいふんいきは十分にかもし出された。結局勝敗は実力の差というよりも両軍の投手以下全選手の疲労度の相違で左右されていたといってよい。なにしろ四日市が三ゲームに勝っての優勝戦出場に対し、坂出商は四ゲームを経ての進出であり、それも苦戦の連続であったからである。

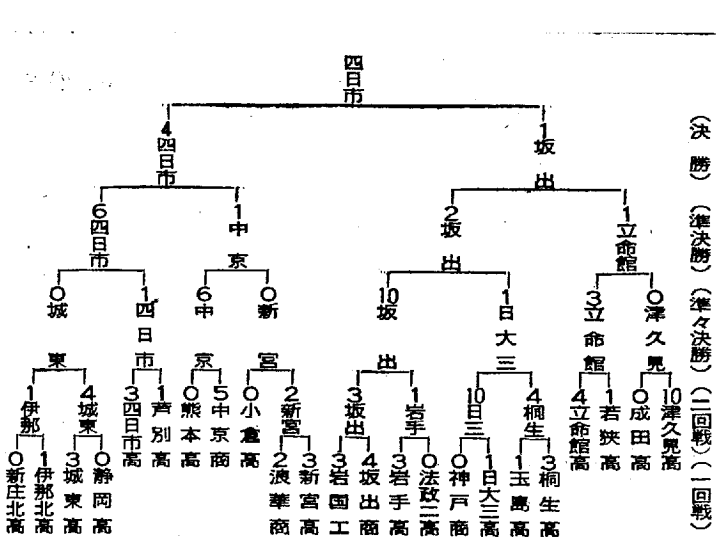
⑳…このハンディキャップは大きく作用し、四日市が終始余裕シャクシャクと闘うことが出来たのに坂出は全選手がワタのようにくたくたに疲れ切っていた。坂出の敗戦もまたやむを得なかったろう「好投手のあるところに優勝はある」という野球界の鉄則は今年もまたいつわらず高橋を擁する四日市の優勝で、目出度く大団円を告げた。（久保田）

【四日市】打得安点振四犠盗失

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (左)寺　本 | 5 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (遊)伊藤政 | 5 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (三)荒　木 | 5 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| (投)高　橋 | 4 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| (捕)成　瀬 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (一)筒　井 | 4 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (二)伊藤大 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| (中)駒　田 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (右)佐　藤 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 37 | 4 | 12 | 3 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 |

【坂出商】打得安点振四犠盗失

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (三)山　地 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (中)山　田 | 4 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (二)黒　田 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| (左)山　科 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (捕)中　川 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| (投)岡　崎 | 4 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (一)水　本 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (右)大　東 | 4 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (遊)大喜多 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 32 | 1 | 6 | 1 | 7 | 2 | 2 | 0 | 2 |




（決勝）（準決勝）（準々決勝）（二回戦）（一回戦）

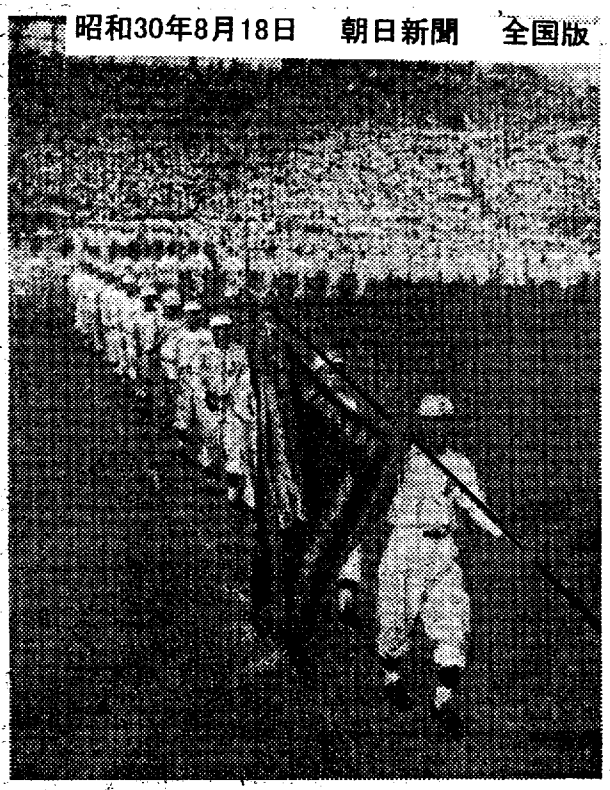
昭和30年8月18日　朝日新聞　全国版

# 四日市高、初の優勝

## 全国高校野球　熱戦の幕閉づ

【甲子園発】第三十七回全国高校野球選手権大会の優勝戦四日市高（三岐）と坂出商高（北四国）の試合は十七日午後二時から満員の観衆を集めた甲子園球場で挙行、決勝戦にふさわしい熱戦を展開したが、一回先取点をあげた四日市の打棒はその後も振い三、八回にも追加点をあげ、ついに4―1で坂出商高を降し、初優勝をとげた。

三重県にひるがえるのは大会創設以来はじめての真紅の大優勝旗は一高の主将高橋君の手に手渡され、ここに村山大会長の手から四日市高の手に準優勝盾が手渡され、八日間にわたり熱戦をくりひろげた大会の幕をとじた。



初の優勝校四日市高チームの場内行進＝甲子園電送

四日市高（三岐）4―1坂出商（北四国）

昭和30年8月18日　朝日新聞　岩手版

# 〝よく闘った、有難う〟

## 岩手高ナイン、元気で帰る

甲子園に奥羽代表として出場、敢闘した岩手高ナインが十七日朝十時半盛岡着列車で元気に帰って来た。駅頭には山中岩手高校長、台PTA会長、同校生徒、校友、父兄ら約五百名が紫色の応援旗を持って待ち構えていた。列車が到着、奥羽大会優勝旗を持った田中主将が眼鏡を光らせながら姿を現わすと〝よくやってくれた〟〝ありがとう〟と選手をいたわる声がとこかしこから起る。盛大な出迎えに選手一同も驚いた表情だった。

駅前広場で岩高ナインは山中校長から〝よくやった、それよりもうれしいのは甲子園に二週間近くも旅行しながら全員病気一つしないで元気で帰って来たことだ〟と温かい歓迎の言葉を受け、ナインを引率して行った戸鳴同校野球部長は全員を代表して〝甲子園で全力を尽して闘うことの出来たのも、ひとえに郷土の皆さんならびに岩手県各校チームの声援の賜物で、感謝しています〟と応えた。

晴れの甲子園のヒノキ舞台で天晴れな活躍をした田中主将、村川投手らは次のようにこもごも語っていた。

「調子は予選のときと変りませんでした。一回戦の法政二高のときはリードしたせいか少しもアガらず、思うつぼの戦いを進めることが出来ましたが、次の坂出商とのときは勝ちたいという気持が先立ったせいでしょうか、緊張のあまり一回戦のときよりずっとアガってしまい残念でした。実に貴重な体験をしたのでこれをいかし来年もがんばりたいと思います」

なお十七日午後五時から盛岡市社会クラブで同校野球部後援会主催の岩手高の敢闘を祝う歓迎会が開かれた。

【写真は盛岡駅に着いた岩高ナイン】